

「広報にしあわくら」も17年1月号で創刊500号を迎えました。今回は広報にしあわくらが伝えてきた西栗倉村での出来事を少しずつですが振り返っていききたいと思います。

1月号第1号発刊。

現在役場に残っている一番古い広報紙は昭和38年11月18日発行の第18号です。この年は7月に集中豪雨で河川が氾濫し、橋が流されるなど大きな被害が出ました。被害総額は4億800万円、今年の台風以上の被害だったことが分かります。

へき地電力不足の解消を図る事を目的とし、西栗倉発電所が完成。

農村集団自動電話が開通し、村民の生活も便利で文化的なものになっていきました。

国民宿舎あわくら荘が完成し、観光地としての西栗倉村のあゆみが始まりました。5月20日の落成式には影石小学校の鼓笛隊の演奏など村をあげての式典となり、盛大な落成式となったようです。また、その年の冬には大茅スキー場のリフト（シングル）が完成し、レジャー施設としても充実していきました。8月号第100号発刊。

昭和52年はあわくら会館落成の年。現在まで多くの方々がスポーツや文化活動で利用されてきました。特に体育館では頻りにバレーボールの大会が開催され、多くの方が汗を流されていたようでした。

落成式の来賓数は村始まって以来の多さで、岡山県警察音楽隊をはじめ様々なアトラクションもあり、盛大なものでした。

その年の文化の日には第1回のふるさと祭りが開催され、4千人もの人出だったそうです。



▲会館落成式を伝える記事（昭和52年8・7月合併号第170号）



▲あわくら荘の落成式を伝える記事（昭和46年6月、第36号）



▲当時の開通式典を伝える記事。まさか一人一台電話を持つような時代が来るとは、このとき誰も思わなかったでしょう。



▲役場に現存する一番古い広報紙。

スポーツ以外のイベント・行事もこの頃から増えていきます。西栗倉中学校のプールが完成。

影石小学校の体育館が完成と教育施設の充実も図られました。

筏津地区飲料水供給施設新設事業で飲料水の乏しかった筏津地区へ水不足解消のための施設が作られました。

5月16日には西栗倉スポーツ少年団が結成され結団式が行われました。これまでも多くの好成績を残してきた「スポ少」はここからスタートしました。1月号第200号発刊。

12月2日には現在の志戸坂トンネルが開通。山陰と山陽そして近畿圏へつながる交通の要所となり利用しやすくなりました。

あわくら荘が増改築され、総合結婚式場「吉光殿」が完成しました。

4月13日には第1回あわくら武蔵路健康マラソンが開催。10kmコースのスタート地点はあわくら荘前。春のあわくら路を全国から参加した数多くのランナーが駆け抜けていきました。この大会は今年で20回を迎えます。

9月10日には村民グラウンドに照明施設が完成。村民野球ナイターリーグや花火大会等夜行われるイベント等に利用されています。

5月号第300号発刊。

村政施行100周年を迎え10月21日に記念式典が行われました。



▲照明設備完成（昭和61年10月号第281号）



▲記念すべき第1回のあわくらマラソン大会（昭和61年5月号第276号）



▲志戸坂トンネル開通当日の様子（昭和57年1月号第224号）



▲結団式当日の一枚（昭和55年6月号第205号）

平成2年

黄金泉がオープン。昭和63年よりボーリングを開始し、一年がかりの掘削により湯が出ました。あわくら温泉の中心的存在として村内はもちろん、外部からの常連客の方も多くおられます。

また、同じ年にはレストセンターあわくらんどもオープンしています。

ゆうゆうハウスが完成。健康で長生きのできる村づくりのため、高齢者福祉充実のための施設ができました。

3月には西栗倉中学校校舎の改築工事が完成。それまでの木造に代わり、鉄筋コンクリートの校舎。時代に即応した教育環境作りのため、校舎の老朽化等々の理由により改築となりました。

西栗倉中学校体育館も平成5年2月に完成。4月12日に落成式を行いました。

平成6年

岡山県消防操法訓練大会小型ポンプの部において第二部(坂根)が見事準優勝の快挙を成し遂げました。第二部はこの後も活躍を続け英田郡では10年連続の優勝など西栗倉村消防団の顔として活躍し続けています。またこの年の12月3日長い年月をかけ智頭線が開通しました。鉄道建設運動が始まったのが明治30年。昭和41年に工事着手しましたが国鉄経営再建のありを受け、昭和55年から工事が中止となりました。鳥取、岡山、兵庫の3県と関係12市町村が主体となって智頭線を完成させるため昭和61年に智頭鉄道株式会社(現在の智頭急行株式会社)を設立。62年より工事に入り現在の智頭線が開通となりました。

▲100周年記念式典の様子。
西栗倉村は今年で100年を迎えます。
(平成元年11月号 第310号記事)

100年の想い、そして新たな誓い
村制施行100周年記念式典



▲西栗倉小学校・西栗倉小学校が統合。西栗倉小学校として新たにスタートし、校舎も現在の校舎に新築となりました。



▲黄金泉オープン/特集記事 (平成2年3月号第322号)



▲ゆうゆうハウス完成特集記事 (平成3年7月号第338号)



▲西栗倉中学校改築特集記事。完成までの足跡などを紹介していました。(平成4年4月号第347号)

平成8年

9月号第400号発刊。

幼稚園の新園舎が完成しました。

平成10年

影石小学校・西栗倉小学校が統合。西栗倉小学校として新たにスタートし、校舎も現在の校舎に新築となりました。

平成12年

4月1日より介護サービス事業が開始。介護保険制度の開始にともない、介護保険を適用したサービス(「訪問介護サービス」「通所介護サービス」「デイサービス」)が行われるようになりました。



▲介護サービスを特集した記事 (平成12年5月号第444号)

平成13年

開かれた村政と村民参加の村づくりを目指し、9月1日より「西栗倉村情報公開条例」が施行。

平成14年

2月15日・16日に西栗倉村・東栗倉村・大原町が企画、山村が生き抜くための交流会議と題し、全国源流のむら会議が開催。地元関係者と北海道から九州まで全国から合計180名の参加者により村づくりに関する示唆に富んだ意見交換が行われました。



▲いきいきセンターを特集した記事 (平成14年5月号第468号)

4月1日いきいきふれあいセンターがオープン。健康作り、福祉の相談、各種手続き、介護保険の相談・各種手続き等を役場より移し、業務を行うようになりました。

平成16年

勝田町、大原町、東栗倉村、美作町、作東町の六ヶ町村で設置した勝英合併協議会から8月に脱会。



▲合併協議会脱会を伝えた記事 (平成16年9月号 第496号)



▲全国源流のむら会議特集記事 (平成14年3月号第466号)



▲村民の長年の夢だった鉄道開通が実現。(平成7年1月号 第380号)



▲消防団の健闘を称えた特集 (平成6年6月号 第373号)